

令和6年度 学校経営方針

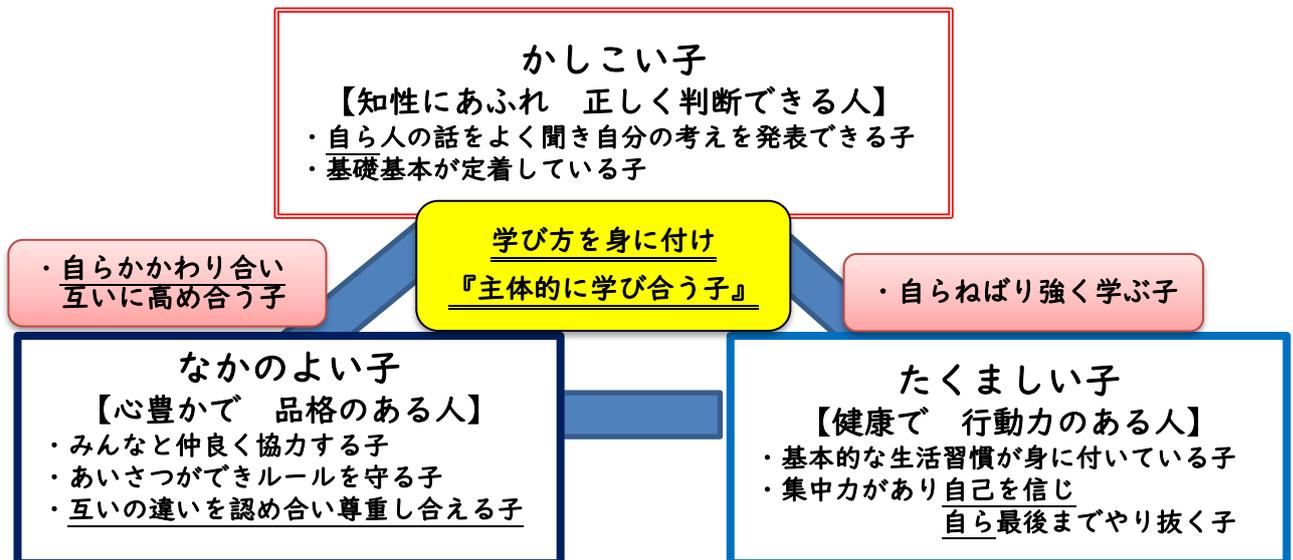
練馬区立大泉小学校
校長 小高敏男

<経営方針:目指す学校像>

- 学校、保護者、地域が互いに温かい人間関係の中で、子供一人一人のもてる力を十分に発揮し、子供も大人も誇りに感じる学校。
- ◎ 教職員は、子供を日々成長させるべく学級や学年の集団の中で「子供を鍛える・高める・成長させる」という熱意をもって指導を行い、その過程や成果、状況を連絡・公開・公表するとともに、児童の姿から教育活動を評価し、改善を図り、子供の健全育成を実現させる役割を果たす学校。
- 業務の無駄や重複を避けるために、業務内容を分担・共有し、教育効果を損ねることなくより良い組織的な働き方に改善し、業務効率を向上させる学校。
- 法令・社会規範・一般社会からみても、当たり前なことを当たり前に対応する・できる学校。

I 目指す学校像・基本的な考え方

1 教育目標と児童像【目指す15歳の姿】



※学習面、運動・生活面においても3つの関連は三位一体と考える。

2 教育指導の目指す方向 ~日常の児童の姿から~

●目標(めあて)を自らもつ ●人とかかわる楽しさを味わう ●自らの高まりを実感する

- 常に自ら高めようとする意志をもつ。
- 自己肯定感を高める。
- 自ら仲間と共に高め合う意志をもち、より良い関係性を築く。
- 社会生活に必要なマナーやルールを身に付ける。
- 役割や立場を理解し、互いを尊重し思いやる心をもつ。
- 義務や責任、役割を果たそうとする気持ちをもつ。
- 健康・体力づくりに自ら取り組む力を高める

3 経営方針達成のために <<中期的経営目標>>

- 1 自己肯定感を高め主体的に学び合う児童の育成のために、自己の高まりの実感ができる授業改善と『教室から学室』への教員の意識改革と授業改善
- 2 児童の自立と中学校へのスムーズな接続のための小中連携の充実
- 3 地域や外部の意見を取り入れた学校運営の推進

4 目標達成のための教職員の基本的な構え

認める ①いつ（すぐ、後で） ②場面（個別に、皆の前で、家庭に連絡） ③方法（驚嘆・冷静・さりげなく、手紙、表情・サイン） ④内容（結果・取組、プロセス、かかわり）等
※ 児童本人が認められた理由が分かる・伸びを実感する・自覚する・自然体で！
※ 具体的な事実を何がよかったのか、何が伸びたのかを実感できるような言葉で！

- 児童の意欲を高めるために、失敗を恐れさせず「認め、褒め、励ます」など安心感のある環境作り、**笑顔**と「**笑い**」のある雰囲気作りを行う。
また、過ごしやすい環境、衛生・安全面の徹底を図る。
- 児童・保護者・地域の信頼関係を強めるために、「児童理解」に努める。
特に、保護者と密に情報連携を行い、協働して児童を育てる。

「切り替える」 学校生活には、「切り替える」場面が沢山あり、切り替えが上手にできれば、より生活が楽しく、その時間も有意義な時間となり充実する。

学ばせる 学び方を身に付けさせ、教えるよりも児童自身が学ぶ学習活動にする。児童相互に学び合う学習活動にする。○めあては、児童自身が立てる。○一人学びの時間を確保し自力解決や自分なりの考え等をもたせる。○訪ね歩きやルパンタイムなど児童が学びを求めて主体的に取り組ませる。○相互指名やグループ討議等をさせ児童同士で課題解決させる。

「受け入れる・自分を信じていることができる」子供

- (1) 自分を「受け入れる」自ら頑張っている自分、チャレンジした（している）自分、練習したけれどうまくいかなかった自分を穏やかな気持ちをもって、自分を認める。
- (2) 他の人を「受け入れる」友達とのかかわり合いを大事にしている。友達も頑張っている。応援したり、励ましたり、手伝ったり、拍手を送ったりしていく。おおらかな気持ちを持ち、相手の立場に自分を置き換えて受け入れることも大切。
- (3) 環境を「受け入れる」 ①自然、気候に合わせる、美しいものを観賞するなど季節の移り変わりを楽しむ ②限られた時間の有効活用、今ある場で努力するなど、自分では条件を変えられない場面でも、諦めず明るく元気に活動していく。

- 1 児童の安全確保と衛生管理 「安心できる学校」とする。
 - (1) 災害や事故等が発生した時の迅速・的確な対応を全職員でとる。
 - (2) アレルギーに対する適切な対応を全職員で行う。
- 2 教育活動を公開し地域が誇りとする学校にする。
 - (1) 教育活動の活性化を図るために、地域人材を生かした授業や、学校・学年公開を行う。
 - (2) 「日常」の教育活動をホームページ等で発信する。各学年で子供の頑張り等を発信していく。
- 3 児童の「学習意欲や生きる力」を高められる学校にする。
 - (1) 学習態度の「基礎・基本」を身に付けさせる。
 - (2) 児童の悩みの解消、児童理解の深化のために家庭、職員間で連携を密にし組織対応する。
 - (3) 学習活動等の目的や課題を子供自身の興味や関心、問題意識等から明確にもたせ、その課題の解決が自らできるようにする。また、子供が必要感や必然性をもった問題を解決する学習を重視し、児童が自ら考え判断し表現することを十分に経験させる。
 - (4) 基本的な生活習慣の確立、自主的・自律的に行動する態度を育成する。特に「挨拶」や和やかなコミュニケーションの徹底を図る。